

2章 空気調和設備	2 排煙設備	3章 給排水衛生設備	4章 凍害雪害防止および寒冷地対策	6章 特記補足事項																																
① 空気調和設備、換気設備 設計温度湿度条件（下記以外の特殊条件は図中に記載する） <table><tr><th colspan="2">外 気</th><th colspan="2">屋内（調整目標値）</th></tr><tr><th>一般系統</th><th>24時間系統</th><th>一般系統</th><th></th></tr><tr><th>温度（DB）</th><th>湿度（RH）</th><th>温度（DB）</th><th>湿度（RH）</th></tr><tr><td>夏 期</td><td>34.4℃ 59.6%</td><td>26℃ 50%</td><td>℃ %</td></tr><tr><td>冬 期</td><td>2.0℃ 31.2%</td><td>22℃ 40%</td><td>℃ %</td></tr><tr><td>中間期</td><td>℃ %</td><td>℃ %</td><td>℃ %</td></tr></table> (1) 冷凍機 ※冷凍機廻り安全弁集合放出口は、冷凍機当該部分から外気に直接面する箇所まで、すべて空調設備施工業者工事とする。 (2) 熱源機器、空調機屋外機 ※熱源機器（特に屋外機）の設置に当たっては、所定の騒音規制値を満足防音対策を施すこと（検討書・施工要領書を監督員に提出すること） ※屋外機の設置箇所が、ショートサーキットを起こさない構造であることを確認すること。 (3) ばい煙濃度測定口（第3編 1.1.8） ※設けること（測定口は80φ以上とし、取付箇所は煙道の直線部とする。） (4) 煙道（第3編 1.1.8） 板厚（・3.2mm ・4.5mm） 材質（・鋼板 ・ステンレス鋼板） (5) ダクト（第3編 1.14.1-1.14.11） 低圧ダクト（・アングルフランジ工法 ※コーナーボルト工法 ※スパイラル） 高圧ダクト（※アングルフランジ工法 ・コーナーボルト工法 ※スパイラル） コーナーボルト工法（※鉄板フランジ工法 ・スライドオンフランジ工法） a 材質（ ）内に使用範囲を記入する。 ○亜鉛鉄板（全 股） ・内外面塩ビコーティング鋼板（ ） ○ステンレス鋼板（・浴室 ○厨房排気系統 ○シャワー室系統） ・グラスウール（ ） ・補毛銅板（ ） ・ガルバリウム鋼板（ ） ※厨房排気ダクトに亜鉛鉄板を使う場合は標準仕様書より一層手厚くする。 ○厨房排気ダクトは勾配を取り、ドレン抜きを設ける。詳細は図示による。 b ダンプ類 ・防煙ダンパ ※遠方復帰時 ・手元復帰時 ・ヒストンダンパ（PD） ※遠方復帰時 ・手元復帰時 c 防振支持範囲 ※機械室内 ※シャフト内 ※NC35以下の居室 ※屋上 ※主ダクト経路部分 d 防振支持材 ※ゴム ・スプリング（ ） (6) 吹出口・吸込口類（第3編 1.15.3） a 材質 ○鉄板 ・アルミ ○樹脂（ ） ・ステンレス（ ） ※各制気口の消音内貼りは25mmとする。 (7) 保溫 特記No.1の他、下記による。（第2編 3.1.4） a 保溫対象 ○給気 ・送気 ○外気 ○全熱交換器ユニットの外気ダクト ○全熱交換器用の排気ダクト ○多室箇所のダクト（ シャワー室 ） ○湯沸室の排気ダクト ロックウール保溫材（保溫の厚さ50mm）とし、範囲は図示による。 (8) 厨房ダクトのシール（第3編 2.2.1） ※厨房系統 ※浴室（シャワー室、脱衣室を含む）系統 (9) 風量・温度測定口の取付（第3編 2.2.7.3） ※送風機吐出ダクト又は吸込ダクト ※空調機出口の各系統ダクト ※外気取入ダクト ※送気ダクト ・図示した位置 (10) 温度計の取付（第2編 2.3.2） 円形指示計（パイメタル型100φ）とする。 ・冷凍機の冷水管（送り、返り）及び冷却水管（送り、返り） ・直貫吸収冷温水機の冷温水管（送り、返り）及び冷却水管（送り、返り） ・ボイラの温水管（返り） ・空気調和機の冷温水管（送り、返り）及び三方弁装置後の冷温水管（返り） ・熱交換器の温水管（送り、返り） ・冷温水ヘッダー（往）及び冷温水ヘッダーの各返り管 ○空気調和機（パッケージ形を含む）のサブライチャンパー、レタングダクト、外気取り入れダクト及びレタングチャンパー (11) 圧力計の取付（第2編 2.3.1） ・冷凍機の冷水管（送り、返り）及び冷却水管（送り、返り） ・空気調和機の冷温水管（送り、返り） ・直だき吸収冷温水機の冷温水管（送り、返り）及び冷却水管（送り、返り） ・熱交換器の温水管（送り、返り） (12) 瞬間流量計の設置（第2編 2.3.7） パイプ方式によるもので止水コック付とする。 ・冷凍機の冷水管及び冷却水管 ※送り ・返り ・固定形 ・着脱形 ・直貫吸収冷温水機の冷温水管及び冷却水管、温水発生器（ボイラ）の温水管 ※送り ・返り ・固定形 ・着脱形 ・空気調和機の冷温水管 ※送り ・返り ・固定形 ・着脱形 ・冷温水ヘッダー ※各送り管 ※各返り管 ・固定形 ・着脱形 (13) 油面計設置（第2編 2.3.5） 制御盤には（・給油ポンプ制御 ・返油ポンプ制御 ・電磁弁制御 ・満油警報 ・減油警報 ・過満警報（ ） ）の端子を設ける。 フロートスイッチ部との制御盤間の配管配線は製造者の標準仕様とする (14) 天井内設置の送排風機 ※回転数は原則として1,000rpm以下とする（ただし、#1/2以下は監督員指示による）。 (15) 可変風量空調方式（VAVシステム） ※以下の点に留意し施工すること。 ○送風量の変化に関わらず、外気は必要な風量を確保する（必要外気量によりVAVユニットの最小開度を設定するなど）。 ○送風量が最小になった場合に、排気などにより室内が負圧とならないようにする（給気量と排気量（または送気量）を比例制御する、各系統の外気ダクトおよび排気ダクトに定風量装置を設置するなど）。 (16) 火気使用室の給気口の位置・構造については以下の事項に留意すること ※外気の侵入により、ガスの炎が立ち消えない位置とすること ※寒気を感じることで、給気口を塞いでしまう位置に設けないこと ※外気処理を行わず、冬期に冷気が室内に侵入する給気口においては、火気使用時に換気ファンと連動して開放される機構のものとすること。	外 気		屋内（調整目標値）		一般系統	24時間系統	一般系統		温度（DB）	湿度（RH）	温度（DB）	湿度（RH）	夏 期	34.4℃ 59.6%	26℃ 50%	℃ %	冬 期	2.0℃ 31.2%	22℃ 40%	℃ %	中間期	℃ %	℃ %	℃ %	③ 自動制御設備 ※BEMSの各種初期データ入力はすべて本工事とする。 ※外気処理空調機が冷温水コイルの場合、二方弁のCV値を確認すること。 ※自動火災報知設備（電気工事）発報時における空調機・送排風機の運動停止について、電気設備施工者と調整を行うこと。 a 電気計装工事の配線（第4編 1.1.9） ※屋外・屋内露出部の配線は、金属管配線とする。 b 温湿度検出器 遠隔監視、自動制御などのために、居室などに温湿度検出器を設けるときは、居室の平均的な状況が把握できるように、以下の点に留意すること。 ※居室の中央部や送気ダクトなどに設置すること。 ※吹出口の近くや、窓際、居室の隅などの気流や日射の影響を直接受ける位置にしては、設置しないこと。 ※原則として床面より1.2m~1.5mの高さに設けること。 ※天井高が2.8mを超える場合は、温度検出器を天井面や天井内のダクト・や空調機器に設けなければならない。 c 炭酸ガス濃度による制御 ・炭酸ガスの濃度に問わず、外気の導入を停止しない（最小必要外気量を確保する）システムとすること。 ・炭酸ガス濃度センサーは、空調系統毎に有効な位置に設置すること。 ・外気量が最小になった場合に、排気などにより室内が負圧とならないようにすること。	① 給水設備 (1) 量水器（第2編 2.2.14） ○観メーター（○貸与品 ・ ） ○チメーター（○買取り ・ ） (2) 量水器架（第5編 1.8.4） (3) 水栓柱（第2編 2.2.9） ・合成樹脂製 ・人造石とぎ出し製 ○ステンレス (4) 管の地中埋設深さ（凍結震度 GL- mm）（第2編 2.7.2） 車両通行部分（○600mm ・ mm） その他の部分（○300mm ・ mm）以上とする。 (5) 受水槽・高架水槽の構造 ※壁、床、その他障害物より八面点検に必要な保有空間をとること。 （上部1,000mm以上 周囲600mm以上 下部600mm以上） ※水槽上部には給水管以外の配管を設けないこと。 ○二槽式または中仕切り式とする。 ※マンホールは鍵付き防水バッキン入り600φとし、水槽天端より100mm以上立上げること。梯子付きとすること。 ※オーバーフロー・水抜き管は間接排水（防虫網付）とし、排水口空間は管径の2倍（最小150mm以上）とする。 ※通気管（防虫網付）を設け水槽上部より300mm程度立上げること。 管径は吸込管の1/2以上の有効断面をとること。 ※水槽上部と高水位の空間は300mm以上とする。 ※吸込口の位置は水槽底部より150mm以上の空間をとること。 ※流入口とオーバーフロー管との間には必要な吐水口空間を設けること。 ※（給水管・吐水口空間、13mm-25mm、20mm-40mm、25・32・40mm-50mm、75mm以上一同径） ○排水管（汚水・雑排水管）との離隔を5m以上とすること。 ・塔屋上部に高置水槽を設置する場合、高置水槽周囲は内法0.6m以上とする。なお、1.0m以下の場合には、高さ1.1m以上の安全柵（手摺り）を設けること。 ・架台上部に高置水槽を設置する場合、架台高さ法が2.0mを超える場合には、高置水槽周囲に点検歩道を設け、幅0.6m以上、高さ1.1m以上の安全柵（手摺り）を設けること。 ○震災時の飲料水確保のために、地震警報と緊急遮断弁を設置する。（制御盤机）サクション側は水栓を設ける。 (6) 給水設備の洗浄及び水質検査 ○自治体登録業者による給水管の洗浄（高周波法）及び水槽の薬品洗浄を行う。 ○自治体登録業者又は公的機関による水質検査を行う。 水道水：一般項目（水道法第4条第1項第1・4・5・6号及び残留塩素） 井戸水：全項目（水道法第4条第1項第1～6号及び残留塩素、トリクロロエチレン・トリクロロエタン・テトラクロロエタン） (7) 受水槽などの死水防止構造について ※常に衛生的な水を確認するために、以下の措置を講じること。 ※受水槽などの給水口と排水口は、対称位置に設ける。 ・受水槽には、注回壁を設ける。 受水槽などの低負荷時対策について 季節などにより飲料水の使用変動が大きいと考えられる場合には、受水槽などには必要に応じて水質を適正に保つため、以下の事項を行う。 ○使用変動に前して、水圧センサ式水位制御システムにより給水の開始、停止水位を中央監視盤から遠隔にて設定可能とする水位調整を行う。（または、定水位弁の動力停止用電線を切替える） ・貯留水量の少ない季節（低水位）の時には、流入口端からの水面の落差が大きくと水面の波動が大きくなるため、防波板の設置など水位調整に支障のないような措置をすること。 ・塩素減菌装置を設ける。 ・電極棒を高水位、低水位の2カ所設置する。 (8) 給水管について ※給水管は、他の配管と明確に識別できる措置（色分け、文字入れ、色バンドなど）を行うこと。 ※上水配管と中水配管（雨水系統、工業用水系統を含む）は該配管をさけるため、管材種類を異なったものとし、明確に識別できる措置（色分け、文字入れ、色バンドなど）を行うこと。 ※中水系統（雨水系統、工業用水系統を含む）の配管、ポンプ類、吐水口には、赤文字で容易に消えない方法で「飲用厳禁」と記入すること。 (9) 吐水口空間 ※給水器具をはじめとする給水設備には、有効な吐水口空間を確保する。 有効な吐水口空間が確保できない場合には、バキュームブレーカーを取り付けるなど（器具の溢れ縁から150mm以上の高さに取り付ける） 逆流防止のための有効な措置を講じること。 (10) 直結栓の設置について ○建物内には、水道本管と直結の給水栓（量水器と受水栓の間に設置）を設けること。（受水栓の清掃用等） (11) その他 ○空調に使用する給水管には二重式逆流防止器を設置し、飲用系統と縁を切ること。加温系統も含む。	② 機器からの排水 機器からなどの排水は間接排水とし、適切な排水口空間（下表参照）を確保する。ただし、受水槽などの各種飲料用貯水槽の間接排水空間は、表-4にかかわらず最小150mmとする。 排水口空間（HASS-206） <table><tr><th>間接排水管の管径（mm）</th><th>排水口空間（mm）</th></tr><tr><td>25以下</td><td>最小50</td></tr><tr><td>30-50</td><td>最小100</td></tr><tr><td>65以上</td><td>最小150</td></tr></table> (3) 直接外部に開放された排水通気管末端と建築物の開口部との位置について ※直接外部に開放された通気管の末端は、以下の事項によること。 ※建築物の出入口、窓、外気取り入れ口などより、0.6m以上立ち上げること。 0.6m以上立ち上げられない場合には、水平に3.0m以上離すこと。 ※屋上に設置する場合には、雨水が流入しないような高さ（約0.2m）に立ち上げること。 ○樹木が多い場所では、落葉や鳥の糞を防ぐため防鳥網を設けること。 (4) グリース阻集器、和風大便器などの防区画貫通部の措置について ※グリース阻集器、和風大便器などが防火区画の床を貫通する場合には、防火区画を構成できるような床スラブのビートを設けるか、耐火性能を有する材料で被覆（穴落ししない構造）とする。 (5) 排水樹 ○住来工法 ○塩ビ小口径樹 ・小口径レジンマンホール (6) 漏水試験機手（第2編 2.4.7） 標準仕様書による他は図示箇所に取付ける。 (7) 試験（第2編 2.9.4） 衛生器具等の取付け完了後に行う試験（・通水試験 ・煙試験） ④ 衛生器具設備 (1) 散水栓について ○散水栓は「ドーム型」、「壁付き型」または「水栓柱型」を原則とする。やむを得ず「床埋込み型」にする場合は、配管の途中に逆流防止器（バキュームブレーカー）を設けること。 (2) 和風大便器の防火区画の貫通処理 ○標準図（施工61）による (3) 洗面器 ※原則としてオーバーフロー付きとし、オーバーフローがない場合は、床排水を設けるか、溢水防止の処置を行う。 ○共用の洗面器であっても車椅子使用者に対応した器具、トラップ、カウンタートとする。詳細は監督員と協議を行うこと。器具の型番は図示による。 ⑤ 消火設備 (1) 屋内1号消火栓柱（原則として易操作型とする。） ○HB-1A、B ・HB-1AT、BT ・図示による 材質 ○鋼板製溶接加工 屋内消火栓開閉弁 ※10K (2) 屋内2号消火栓柱（補助散水栓柱） ・HB-4A ・HB-4B ・図示による 材質 ・鋼板製溶接加工 (3) 地中埋設管の接合 ※外面被覆鋼管の呼び径100以上はねじ接合とする。 (4) 保溫 ○屋外露出部分 ○有（ ） ・無（ ） (5) 連結送水管 ○50A、65Aマルチ型吸口 ・65A放水口 (6) 厨房機器設備（第5編 1.6.1） 機器の寸法は概略寸法とする。 加熱方法 ・都市ガス ・電気 ・液化石油ガス（LPG） ・蒸気 ステンレス鋼板及び鋼材（・SUS430 ・SUS304 ・図示による） ・HACCP仕様の機種とする。 7 ガス設備 (1) 配管材料（第6編 2.1.1） 都市ガス ガス事業者の供給規定による。 (2) メーター ・観メーター（・貸与品 ・ ） ・チメーター（・買取り ・ ） (3) ガス漏れ警報器（第6編 2.1.3） 設置する。室名（ ） 外部警報端子（・有 ・無） ⑧ 排水再利用設備（雨水利用設備については、中水を雨水と読み替える） ※排水再利用設備（中水道）については、国土交通省や自治体の指導内容に準拠し、また、以下の措置を行うこと。 ※中水（雑用水）貯留槽は、水道水から補給ができるようにする。この場合、中水が水道水に混入しない構造とする（補給水槽の設置、十分な吐水口空間を確保した間接給水など）。 ※中水（雑用水）給水管は、中水（雑用水）の給水管である旨を色別などで表示するか、管材を異なるものとする。 ※中水（雑用水）給水管には、中水（雑用水）の水質を検査するための検水コックを設ける。 ※残留塩素を保持するために、塩素処理設備を設ける。 ※中水（雑用水）を用いる水洗便所には、手洗い付き洗浄用タンクを使用しない。 ※洗浄装置付き便器を使用するものは、洗浄装置には水道水を使用する。 ※水栓など一般の人が触れるおそれのあるものは、鍵付きとする。 ※余剰雨水を排除するため、公共下水道などへの有効な排水設備を設けること。 ※下水道料金等の徴収のための量水器を設けること。 ※中水使用実績を把握できる位置に量水器を設けること。	間接排水管の管径（mm）	排水口空間（mm）	25以下	最小50	30-50	最小100	65以上	最小150	① 専門工事 以下の工事項目の特記は標準仕様書による他は図示による。 以下の各工事は専門業者の責任施工とし、図示された仕様と能力と性能を満足するものとする。 ・スプリンクラー消火設備 ・不活性ガス消火設備 ・泡消火設備 ・簡易自動消火設備 ・厨房機器設備 ・浄化槽設備 ・特殊排水処理設備 ・R1処理設備 ○医療ガス設備 ・実験用生産用ガス設備 ・さく井設備 ○医療水設備 ○自動制御設備 ○床吹出併用輻射冷暖房設備 ② 電気工事 ※自動制御設備工事や消火設備工事の他、上記の専門工事における電気工事は公共建築工事標準仕様書（機械設備工事又は電気設備工事編（平成16年版））によるものとする。 ③ 見積区分およびその他 ○屋外の配管及びダクトの支持架台は、（○本工事 ・建築工事）とする。 ・冷却塔の鉄骨架台は、（・本工事 ・建築工事）とする。 ○ビッド内の配管及びダクトの支持架台は、（○本工事 ・建築工事）とする。 ・共同構内の配管及びダクトの支持架台は、（・本工事 ・建築工事）とする。 ○高い天井内（ISS等を含む）の設備機材の支持鋼材は本工事とする。 ○屋上や機械室内の点検用歩廊は、（○本工事 ・建築工事）とする。
外 気		屋内（調整目標値）																																		
一般系統	24時間系統	一般系統																																		
温度（DB）	湿度（RH）	温度（DB）	湿度（RH）																																	
夏 期	34.4℃ 59.6%	26℃ 50%	℃ %																																	
冬 期	2.0℃ 31.2%	22℃ 40%	℃ %																																	
中間期	℃ %	℃ %	℃ %																																	
間接排水管の管径（mm）	排水口空間（mm）																																			
25以下	最小50																																			
30-50	最小100																																			
65以上	最小150																																			

凡	例
---	---

	記 号	名 称	材質 NO	備 考
○	—— SA ——	空調給気ダクト		
○	—— RA ——	空調還気ダクト		
○	—— OA ——	外気取入ダクト		(空調ダクト)
○	—— EA ——	排気ダクト		(空調ダクト)
○	—— AxB ——	矩形ダクト		亜鉛鍍鉄板製
○	—— Aφ ——	丸ダクト		スパイラルダクト
	—— SM ——	排煙ダクト		
	////////	耐火被覆ダクト		
	—— VEA ——	排気ダクト		(還気ダクト)
	—— VOA ——	外気取入ダクト		(還気ダクト)
○	—— ● FD ——	防火ダンパー		
○	—— ◊ VD ——	風量調整ダンパー		
○	—— ◊ FVD ——	風量調整兼用防火ダンパー		排煙用は、280℃
	—— ◊ SFD ——	煙感知器連動ダンパー		
○	—— ◊ CD ——	逆流防止ダンパー		
	—— ◊ PD ——	ピストンダンパー		
○	← □ → ↘	吹出口		
○	→ □ → ↘	吸込口		
	□ ↘	排煙口		手動開放装置付（電気式）
	—— [格子] ——	フレキシブル継手		
○	—— [斜線] ——	消音エルボ		GW25.50m/m内貼り
○	—— [斜線三角] ——	消音ボックス、チャンバー		GW25.50m/m内貼り
○	—— VAV ——	可変風量装置		
○	—— CAV ——	定風量装置		
	—— CS ——	冷水管（往）		
	—— CR ——	冷水管（返）		
	—— H ——	温水管（往）		
	—— HR ——	温水管（返）		
	—— CHS ——	冷温水管（往）		
	—— CHR ——	冷温水管（返）		
	—— CDS ——	冷却水管（往）		
	—— CDR ——	冷却水管（返）		
	—— E ——	膨張管		
	—— O ——	油管（往）		
	—— OR ——	油管（返）		
	—— OV ——	油通気管		
	—— S ——	蒸気管（往）		
	—— SR ——	蒸気管（返）		
○	—— R ——	冷媒管（往、返共）	21	又は、メーカー規格
○	—— - ——	給水管	6	
○	—— D ——	ドレン管	22	区画貫通部2、ビット埋設1

記 号	名 称	材質 NO	備 考
	仕切弁		JIS10K
	逆止弁		JIS10K
	防振継手		合成ゴム製
	防振継手		ステンレス製
	可とう継手		合成ゴム製
	可とう継手		ステンレス製
	Y形ストレーナ		
	伸縮継手（複式）		
	伸縮継手（単式）		
	自動エア・抜き弁		
	二方弁装置		（・水・蒸気）
	三方弁装置		
	電磁弁装置		（・水・蒸気）
	電磁流量計装置		
	減圧弁装置		（・水・蒸気）
	蒸気トラップ装置		
	GV		
○		給水管（上水）	6 埋設部7
○		給水管（雑用水）	5 埋設部（HIVP）
○		給湯管（往）	11
○		給湯管（返）	11
○		雑排水管	22 区画貫通部2、ビット埋設17
○		汚水管	22 区画貫通部12、ビット埋設17
○		通気管	22 区画貫通部2、ビット埋設17
○		屋外排水管	21 又は、メーカー規格
○		消火管	17
○		連結送水管	2
		蒸気管（往）	4
		蒸気管（返）	
		膨張管	
		ガス管（低圧）	
		ガス管（中圧）	
		ルーフドレン管	
		排水管	
		排水管遮音シート巻き	鉛シート1.0m/m
		汚水、雑排水合流管	
		厨房排水管	
○		仕切弁（給湯、ボール弁）	直結部、揚水管JIS10K その他JIS5K
○		逆止弁	JIS10K
○		防振継手	合成ゴム製
○		防振継手	ステンレス製
○		可とう継手	合成ゴム製
○		可とう継手	ステンレス製

[illegible]

管材リスト

[illegible]

※採用は○印

機器表NO. 1

機器番号	機 器 名 称 (系 統 名)	設 置 階	台 数	機 器 仕 様	電動機（50 HZ）					イン ター ロ ック ・ 運 動	遠 方			コン ク リ ー ト 基 礎	防振装置 G:ゴム S:スプリング P:ゴムパット	備 考
					動 力 kW	相 φ	電 圧 V	極 数 P	起 動 方 式		発 停	運 転 故 障 表 示	警 報			
T-1	受水槽	1階	1	銅板製一体型、ポンプ室付 寸 法：7500X2500X2000H 水 槽：5500X（1250+1250）X2000H,中仕切付 ポンプ室:2000X2500X2000H 呼 称：27m³（有効 19m³） 耐震強度：1.5G 付 属 品：平架台,マンホール,緊急遮断弁(100A),制御盤 梯子,電極座カバー,防波管,他標準付属品一式 タッピング：給水口 40AX2,ボルトタップ給水口 20AX2,揚水口 100AX2 連通口 100AX2,オーバー 100AX2,排水口 50AX2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	600H	—	基礎建築工事 内外面エポキシ樹脂塗装 機エヌ・ワイ・ケイ NW型
T-2	副受水槽	5階	1	FRP製パネルタ ンク 寸 法：1000X1000X1000H（有効：0.5m³） 耐震強度：1.5G 付 属 品：ブラケット架台	—	—	—	—	—	—	—	—	—	300H	—	基礎建築工事 積水アクアシステム㈱ PSFA-1ー15
T-3	雨水貯留槽	5階	1	FRP製パネルタ ンク 寸 法：2000X2000X2000H 貯 留 槽：(2000X1000+1000X2000) X2000H（有効：3.0m³） 沈 砂 槽:1000X1000X2000H（有効：1.5m ³ ） 耐震強度：1.5G 付 属 品：平架台,マンホール,梯子,他標準付属品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	300H	—	基礎建築工事 積水アクアシステム㈱
WP-1	加圧給水ポンプユニット	1階	1	推定末端圧力一定型 2台並列3台ローテーション運転 50A×65A×700L/min×45m 付属品：制御盤,他標準付属品一式	5.5X2	3	200	—	直入	0	—	—	0	0	300H	S 基礎建築工事 ㈱テラルキョクトウ NX-65VFC503-5.5W×3
DP-1	水中排水ポンプ	1階	2	自動交互並列型 50A×200L/min×5m ×2台 付属品：標準付属品一式	0.4X2	1	100	—	直入	—	—	—	—	—	—	㈱テラルキョクトウ 50PLT-5.4S
DP-1	水中排水ポンプ	1階	2	自動交互型 50A×200L/min×5m 付属品：標準付属品一式	0.4	1	100	—	直入	—	—	—	—	—	—	㈱テラルキョクトウ 50PLA-5.4S
GT-1	グリーストラップ	1階	1	ステンレス製 土間埋設,3槽式,パイプ式 寸法：800×400×765H 容量：100L 付属品：バスケット,蓋,他標準付属品一式	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ホーコス㈱ HGS-100PD
GT-2	グリーストラップ	2階	1	ステンレス製 土間埋設型,3槽式,パイプ式 寸法：600×300×815H 容量：60L 付属品：バスケット,蓋,他標準付属品一式	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ホーコス㈱ HGS-100PD
EWH-1'	電気湯沸器	1階	1	貯湯式 床置型 給湯量：460L/min 付属品：減圧弁 他標準付属品一式	5.4	1	200	—	直入	—	—	—	—	—	—	㈱日本イトミック ES-460RM
EWH-1	電気湯沸器	1階	1	瞬間湯沸式 壁掛型 給湯量：13.3L/min 付属品：減圧弁 他標準付属品一式	40	3	200	—	直入	—	—	—	—	—	—	㈱日本イトミック Et-40N5
EWH-2	電気温水器	1階	1	貯湯式 ラビットスタート型 貯湯量：150L	3.1	1	200	—	直入	—	—	—	—	—	—	㈱日本イトミック ES-150RB-T

機器番号	機 器 名 称 (系 統 名)	設 置 階	台 数	機 器 仕 様	電動機（50 HZ）					イン ター ロ ック ・ 運 動	遠 方			コン ク リ ー ト 基 礎	防振装置 G:ゴム S:スプリング P:ゴムパット	備 考
					動 力 kW	相 φ	電 圧 V	極 数 P	起 動 方 式		発 停	運 転 故 障 表 示	警 報			
EWH-4	電気温水器	1階	1	貯湯式	3	1	200	—	直入	—	—	—	—	—	—	㈱日本イトミック
		2階	1	床置型（流し台用）												ES-30DW3BL
		3階	2	貯湯量：30L												
		4階	2	付属品：膨張水排出装置												
		5階	1													
EWH-5	電気温水器	1階	2	貯湯式	0.6	1	100	—	直入	—	—	—	—	—	—	東陶機器㈱
		2階	1	壁掛型（洗面器用）												REWS03E1F1NM
		3階	1	貯湯量：3L												
		4階	3	付属品：膨張水排出装置												
		5階	1													
EWH-6'	電気温水器	1階	2	貯湯式	0.6	1	100	—	直入	—	—	—	—	—	—	東陶機器㈱
		2階	1	床置型（洗面器用）												REAS06HN12A
		3階	1	貯湯量：6L												
		4階	3	付属品：膨張水排出装置												
		5階	1													
EWH-6	電気温水器	1階	4	貯湯式	1.5	1	200	—	直入	—	—	—	—	—	—	東陶機器㈱
		2階	4	床置型（洗面器用）												REWS12B2B1AM1
		3階	4	貯湯量：12L												
		4階	8	付属品：膨張水排出装置												
		5階	1													
FT-1	消火補充水槽	5階	1	ステンレス製パネル型 有 効：500L 寸 法：1000×1000×1000H 耐震強度：2.0G 付 属 品：アングル架台	—	—	—	—	—	—	—	—	—	300H	—	基礎建築工事 積水アクアシステム㈱
FP-1	消火栓ポンプ	1階	1	消火ポンプユニット 65A×300L/min×50m 付属品：制御盤,吸水槽,圧力計,連成計、フート弁,他標準付属品一式	5.5	3	200	2	直入	0	—	—	0	0	300H	P 基礎建築工事 ㈱テラルキョクトウ NXP-KB×NXF50×50-4-55.5B
H-1	屋内消火栓箱	1階	2	1号消火栓 易操作型	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	㈱立売堀製作所
		2階	2	銅板製屋内壁埋込型,総合盤付,消火器併設型												塗装色 N-93（3分艶）
		3階	3	寸 法：1050×200×1300H												
		4階	2	付属品：消火栓弁,ホース,ノズル、他標準付属品一式												
H-1-1	屋内消火栓箱	1階	1	1号消火栓 易操作型 銅板製屋内壁埋込型,総合盤付 寸 法：750×200×1300H 付属品：消火栓弁,ホース,ノズル、他標準付属品一式	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	㈱立売堀製作所 塗装色 N-20（3分艶）
H-1-2	屋内消火栓箱	5階	1	1号消火栓 易操作型 消防隊専用栓併設型 銅板製屋内壁埋込型,総合盤付,消火器併設型 寸 法：1050×220×1300H 付属品：消火栓弁,ホース,ノズル,消防隊専用栓 1口,他標準付属品一式	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	㈱立売堀製作所 塗装色 N-93（3分艶）
H-2	屋内消火栓箱	2階	1	1号消火栓 易操作型 銅板製屋内露出型,総合盤付,消火器併設型 寸 法：1050×200×1300H 付属品：消火栓弁,ホース,ノズル、他標準付属品一式	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	㈱立売堀製作所 塗装色 N-93（3分艶）
H-3	放水口格納箱	3階	1	単口65A	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	㈱立売堀製作所
		4階	1	銅板製屋内壁埋込型 寸 法：400×220×500H												塗装色 N-93（3分艶）
H-4	移動式粉末消火栓	1階	5	ABC薬剤 33kg	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	日本ドライケミカル
		2階	5	銅板製格納箱共												PAN-100EM
		3階	5	消火器ボックス共（消火器盗難防止ベル付）												

1級建築士 登録 番号 57505号 岡 本 賢

株式会社 レイダン

完成図
2007. 10

管理者(確認)
株式会社 久米設計

請負者(作成)
株式会社 レイダン



株式会社 久米設計
KUME SEKKEI

日付
P.A
担当

平成18年度(仮称)ぬまづ健康福祉プラザ 衛生設備工事

衛生機器表

図面番号
PL-01

設計番号

HEAD

ASSIST HEAD

CHANGE

CHIEF

DRAFT